


平成25年度 環境教育の取組例

三重県教育委員会


【取組例：中学校】

学 校 名	取 組 内 容
木曾岬町立 木曾岬中学校	<p><u>郷土の名所をきれいに</u></p> <p>鍋田川右岸堤防桜並木（通称：桜堤防）は4月の桜開花時には、町外、県外からも見物客がやって来ます。桜堤防は、木曾岬町のシンボルとなっています。</p> <p>その桜並木の一部を整備することにより郷土に愛着を持ち、より一層、自分の町に誇りを持てるようにと、全校生徒で除草作業を主とする活動を行いました。学年ごとに区域を分け、各学級の班ごとにゴミ袋を持ち、堤防道路補導の除草を行います。除草の際に見つけた空き缶などのゴミについても回収を行いました。</p>

学 校 名	取 組 内 容
四日市市立 三重平中学校	<p><u>「美化コンクール」の取組</u></p> <p>美化委員会が中心となって、年間、期間を決めて「美化コンクール」を実施しています。</p> <p>「美化コンクール」の時期が近づくと、時間いっぱいしっかり清掃活動に取り組むように、各クラスの美化委員が中心となって、声をかけ働きかけをしています。</p> <p>コンクールの日の放課後には、教室・廊下・トイレの清掃状況を美化委員がチェックして得点化し、昇降口にその結果を発表しています。</p> <p>コンクールの結果を励みにしながら、次のコンクールに向け、美化委員が中心となって、引き続き掃除活動がんばるよう働きかけています。</p>  <p>清掃の時間の様子です。授業後、制服を体操服に着替えて掃除します。箒で掃いたあと、ぞうきんがけをしています。</p>

	1-1	1-2	1-3	1-4	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
さくらと若葉を て清神びた(20)	20	18	20	20	20	20	19	20	20	19
時間いはいばいば さくらと清神びた	20	18	18	20	20	18	18	20	20	19
教室 廊下(30)	25	25	26	24	26	24	26	23	23	19
トイレ (30)	25	21	23	22	25	30	30	24	25	18
合計(100)	90	82	87	86	91	92	93	87	88	75

美化コンクールの結果表です。各学年1位のクラスに花がついています。

学校名	取組内容
鈴鹿市立 白鳥中学校	<p>エコについて考える「グリーンカーテン」の取組から</p> <p>各教科等や総合的な学習の時間を使って、環境問題に取り組んでいます。身近なところからできる取組として、6月に1年生の教室がある南館南側に、地元自治会の協力を得て、グリーンカーテンを設置しました。</p> <p>まず、1年生の生徒は、グリーンカーテンの設置目的等について説明を受けました。そして、1年生の抽出クラスに寒冷紗を設置し、寒冷紗を設置した教室と設置していない教室の気温を毎日図り比較を行っています。</p> 


学校名	取組内容
伊勢市立 沼木中学校	<p>地域清掃活動</p>  <p>各学年を縦割りにした7班が、通学路を中心に学校周辺の7ヶ所に出向き、地域の方々の協力も得ながらゴミ拾いを行いました。</p> <p>当日は天候にも恵まれ、開始式では上野町日向野里協議会の会長さんから、沼木に生きるものとして故郷の風景を守り残していくことの大切さについての説明をいただきました。校長先生から</p>

は、ゴミを減らしていくことがどう環境に影響を与えるのか、地域の役に立つということがどういうことかについてのお話がありました。生徒会長は、自分たちの町をきれいにしていこうということと、その姿を地域や沼木を歩いていく人たちに見てもらふことによって、一人でも多く道にゴミを捨てていくのをやめようと感じてもらおうと、全校生徒に呼びかけました。

作業は1時間ほどで、地域の方々とも一緒に行い、みんなでよい汗を流しました。

1班5、6名の生徒で活動しましたが、それぞれが持つ袋を分別化し、拾うゴミごとに相談しあいながら、てきぱきと作業をしていました。初めての参加だった1年生も、2、3年生の指示を受けながら楽しそうに活動していました。放課後には、生徒会役員を中心にゴミの分別作業を行いました。



学 校 名	取 組 内 容
鳥羽市立 鏡浦中学校	<p>藻場再生活動</p> <p>学校近くにある砂地の海岸に、アマモという海藻を増やし藻場を再生させています。</p> <p>アマモという海藻の群生する場所は、「海のゆりかご」と言われるくらい多様な生物の棲息地になっています。また、アマモによる光合成は、海の浄化作用に役立っています。かつては、海岸線一帯を覆うほどのアマモが生えていましたが、汚水等により、砂地がヘドロ化し、それを何とか復活させようと、ここ4年間地域の施設（海の博物館）や漁師と連携して藻場再生活動に取り組んでいます。その結果、アマモの生息地は着実に広がっています。</p>  <p>アマモを潮の満ちているところへ移植</p>

学 校 名	取 組 内 容
熊野市立 木本中学校	<p>「校内ゴミ箱なし」の取組</p> <p>平成21年度、生徒会が「校内ゴミ箱なし」の取組を提唱して以来、継続して行っています。これはゴミの大半が、生徒自身がつくり出したもの（配布されたプリント類やティッシュなどの廃棄）であるという反省からきているものです。</p> <p>そこで、プリントの管理や持ち帰りの徹底、さらに余分なゴミを出さないことで、環境の美化を進めながら、併せて環境への負荷の軽減を目指しています。</p> <p>生徒たちは、自分たちにできる「環境美化やエコ」への取組を意識しつつ、日々励んでいます。この取組は今年で5年目となり、「ゴミはなるべく出さないように」という意識は着実に全校に根付いてきています。</p>